

村民の皆さんからお借りした秘蔵写真を公開する「写真は語る」がスタート。第1回目は間瀬の「ナガス鯨の漂着」。



第277号
【昭和60年5月号】

岩室村最初の広報紙。タイトルも「いわむろ」で発行されていた。



第1号
【昭和37年5月号】

県広報コンクール町村の部で1席を受賞。



第304号
【昭和62年8月号】

表紙には村民運動会のプログラム。ページ数は4~6ページ程度でした。



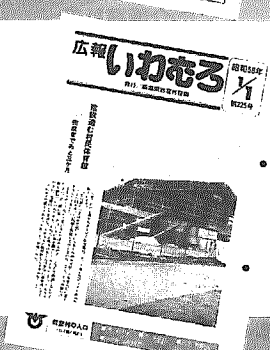
第100号
【昭和45年8月号】

この号より、B5版から現在のA4版サイズとなる。



第312号
【昭和63年4月号】

19年間続いた表紙のタイトルが現在と同じ「広報いわむろ」となる。



第225号
【昭和56年1月号】

昭和63年4月号より各集落を紹介してきた「おじゃましますー地域情報ネットワーク」が、この号の和納9区をもって最終回。



第354号
【平成3年10月号】

表紙が初めてのカラー印刷。



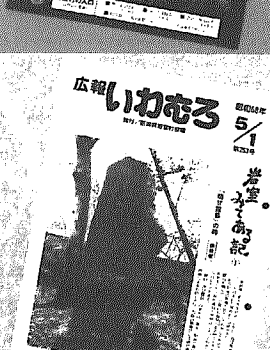
第249号
【昭和58年1月号】

村に咲いている花を紹介する「おらが村の山野草」がこの号の82回をもって終了。



第431号
【平成10年3月号】

この号より5年余り、村内のあらゆる場所を表紙で紹介する「岩室みである記」がスタート。第1回目は横曾根の「瑞甘露翁」の碑でした。



第253号
【昭和58年5月号】

広報の移り変わりを見てみましょう。

村民の皆さんに親しまれる 広報紙を目指して……



皆さんに支えられ515号

「広報いわむろ」が今月号をもって終刊となります。住民の皆さんに村政情報や対話の場として、愛読され親しまれてきた広報紙。皆さんに親しまれ、読んでもらえるような広報紙を目指してきました。

「讀 広報いわむろ」
石瀬 本間 崇さん

広報いわむろ最終号……感無量です。岩室の歴史を綴るものであり、宝であります。時の村政・事情・課題等をきめ細かく掲載されており、毎月届くのが楽しみでした。何をどう取り上げ、どう組むか、編集担当の方々、気の安まる暇もなかったかと思えます。誇れる広報として讃辞をおくります。

私は、かつてある種の広報の編集にかかわったことがあります。その時は数人で担当しましたが、その後当時の人たちの集いがあり、その時、自分の住まいの広報を持ち寄り、これらを題材にして研修をしました。広報いわむろは、見出し・文章・写真など総合して実によくできていると讃えられ、うれしさでいっぱいになりました。

合併は時世の流れ、合併に伴って消えるものもいくつかあります。広報いわむろもその一つです。合併後は、広報の姿が変わり、毎週発行の「市報にいがた」と月1回の「いわむろ支所だより」の2種類になることですが、支所だよりは地域にふさわしく親しまれ、生かされるものをと願い、期待しています。時に「望まれるものは何か」などのアンケートや、各層の代表による評価などを加えたらどうかとも思っています。コミュニティ広報紙としての成長を願っています。